

岡崎市中央図書館大量アクセス事件の概要

中川圭右氏が、新着図書ページのデータを取得するため、クローラと呼ばれるプログラムを利用していた

→大量のアクセスによりサーバが落ちた

→2010年5月25日愛知県警に**逮捕**

→20日間の勾留・取り調べの後に、起訴猶予処分となり**釈放**

岡崎市中央図書館大量アクセス事件の問題点

中川氏擁護側

- プログラム作成は容易→**逮捕・勾留への恐怖**
- 図書館側の勝手な被害者意識
→**被害者届を出すことに対する認識の欠如**
- 図書館側の反省が足りない

図書館擁護側

- 図書館はIT専門家の支援を受けていない

事件から得られた教訓

- 主観的判断を鵜呑みにしたことがもたらす危険性
→ **客観的判断の重要性**
- 技術は日々進化していくものである
→ **新しい知識をその都度、備える必要性**

出典

- 日本図書館研究会研究例会（第277回）報告
<http://www.nal-lib.jp/events/reikai/2010/277report.html>
- 岡崎市立中央図書館事件等 議論と検証のまとめ
<https://w.atwiki.jp/librahack/>